

裏磐梯の鳥・植物・生き物

T・KO

～一日目～

僕は、林間学校一日目、「バードウォッチング」コースで、「鳥」や「植物」、「生物」などについて草野先生の案内により、自分が今まで調べてきて知らなかったことなど、いろいろと学んで来ました。

どんなことを知ったのか、それは、次の通りです。

～鳥の計り方～

「ものさし鳥」

カラス 約55cmくらい

キジバト 約33cmくらい

ムクドリ 約24cmくらい

スズメ 約14cmくらい

～ものさし鳥とは？～

・ものさし鳥というのは、鳥を代表する「スズメ」、「ムクドリ」、「キジバト」、「カラス」の大きさを基準として、鳥の大きさなどを見る物です。例えば、大きいものであれば、「カラスサイズ」。小さいものであれば、「スズメサイズ」など、上の4羽の鳥で大きさを表します。

～留鳥 りゅうちょう～

・留鳥というのは、名前から予想できるように、渡り鳥のように国外にはいかず、一年中日本に生息している鳥の事を言います。

～留鳥の主な種類～

・カラス ・スズメ ・トビ
など

～漂鳥 ひょうちょう～

・漂鳥というのは、留鳥と似ており、日本国内を行ったり来たりする鳥のことを言います。

～漂鳥の主な種類～

・ムクドリ など

～夏鳥・冬鳥の違い～

・渡り鳥にも、たくさんの種類があります。それらを大きく2つに分類すると、「夏鳥」と「冬鳥」に分かれます。それらの特徴は、次の通りです。

「夏鳥」の特徴

- ・南半球に生息している。
- ・エサを求めて日本に来るが、子育て（繁殖）するためにも、日本にやってくる。

～夏鳥の主な種類～

・ツバメ ・オオルリ ・キビタキ ・ホトトギス ・センダイムシクイ ・オオヨシキリ
・カッコウ ・コチドリ など

「冬鳥」の特徴

- ・主に北半球から日本にやってくる。
- ・エサを求めて日本にやってくる。
- ・北半球に生息

～冬鳥の主な種類～

・ヒドリガモ ・シロハヤブサ ・ミミカイツブリ ・チゴハヤブサ ・ホオジロガモ
・ケアシノスリ ・オオハクチョウ ・ギンザンマシコ ・ハイイロチュウヒ
・ウミアイサ ・オオハム ・タシギ ・ヒレンジャク

など

～「バードウォッチング」コースで見た生き物・植物～

・「ヤマナメクジ」



普通に見るナメクジとは大きさが違い、体長は10cm以上もある。話によると、このナメクジなんと、「食用」らしい。

・「葉の表裏についていた虫の卵」



コースの途中の葉っぱにくっついてた虫の卵。写真は葉の裏側で、表側にも卵はついてるのだが、表の方は日に当たって真っ赤に色が変わっていた。

・「クマが掘った跡」



少し見にくいですが、ここにあったアリの巣をクマが掘り出した跡である。すごく生々しいので、最初に見たときはすごくおどろいた。

～2日目～

僕は林間学校二日目、「人と自然との関わり」コースでたくさんの「植物」、「虫」、「動物のこん跡」（クルミの殻や動物のフンなど）を見ることができました。

その中で、僕の疑問であった「オオハンゴンソウの大繁殖の原因」について横田先生に質問した所理解することができました。それは次の通りです。

～オオハンゴンソウ大繁殖の原因～

明治時代のころ、ある家族が外国から「オオハンゴンソウ」を買い、それを持って帰り、庭で育てていて、それがどんどんその土地に馴染んでしまい、繁殖力が高まり、今のような状態になってしまった。

こう見てみると、「植物」とは、とてもこわい物だなと思います。

「なんとなく育ててみようかな」と思ったものが、こんなに大問題になるぐらい繁殖してしまう。誰も予想できないことだと思います。

～「人と自然との関わり」コースで見つけた「植物」や「こん跡」～

・「ニホンミツバチ」の巣

・これはなかなか見ることができないものだそうです。

木の根もとに穴を掘っていて、そこを巣にして活動しています。しかし、近くには敵である「スズメバチ」の偵察ハチがうろついており、今はどうなっているか少し気になります。

・「ムササビ」の巣

高いアカマツの上に巣を作っており、ものすごく見つけにくいです。残念ながら見たのは昼間なのでムササビは巣の中で寝ており、ムササビ本来の姿は見ることはできませんでした。ですが、夜になると活発に他の木などに飛び交うそうです。体長は約20cm。主に木の実などを食べます。

・「テン」のフン



ベンチの上にあるのは、「テン」という動物のフンです。表面が雨で流されており、何を食べているのかなどがよく分かります。この写真をよく見ると、虫がたくさんいるのが分かります。

・「タマゴダケ」



このキノコは「タマゴダケ」と言います。写真左の大きいキノコは大人のキノコで、右の小さいキノコは生えたてのキノコです。

なぜ名前に「タマゴ」が入っているのか。それは、右を見るとわかります。周りについて
いる白いものが「タマゴの殻」に似ていることから名前が「タマゴダケ」になったそう
です。

～自然体験学習を終えて感じたこと～

この自然体験学習を通し、僕は今まであまり関心のなかった「自然」というものについていろいろと知ることができました。事前準備である「調べ学習」も最初の方は少し「面倒くさいなあ。」と思う事もありました。ですが、この裏磐梯の自然についていろいろと調べていくうちに、「へえー面白いなあ。」、「気になるからもっと調べてみようかな。」など自然と調べる事が楽しく思えてきました。裏磐梯に生息する「鳥」、「植物」、「環境問題」など自分が今まで知らなかった事などたくさん学ぶことができ、とても充実した学習をすることができました。そして、林間学校。2日間で2つのコースを歩き、自分が今まで調べてきたもの、現地に行き初めて知ったもの、調べている中で解決しなかった疑問など解決することができ、とても満足する活動ができたと思います。この体験を通して学んだことはとてもたくさんあります。これらが無駄にはせず、一生自分の物として残し、来年行く予定である後輩の一年生たちにもこの裏磐梯の自然の素晴らしさを伝えていけるよう、これからも頑張りたいと思います。